



● 今後のイベントスケジュール

2月22日(火)

①10:00~10:50 ②11:00~11:50 ③12:00~12:50

《2011年度試験を受験予定の学生対象》

中央省庁の採用担当者が、名大生に直接語りかける貴重な機会です。お見逃しなく!!

◎中央省庁 Fair 2011 - 「国」で働く「国」を動かす-

◎場所: 全学教育棟各講義室

◎参加省庁: 外務省、農林水産省、環境省 等

※最大で3つの省庁の説明を聞くことができます。

※9:30~10:00の間、名大生の内定者による相談コーナーも設置予定。

3月26日(土) 11:30-16:00

◎「博士のキャリア相談会」(応用物理学会 会期内)

◎会場: 神奈川工科大学

※第58回応用物理学関係連合講演会の会期

2011年3月24日(木)~27日(日)

3月26日(土)~28日(月)

◎日本農芸化学会 2010年度大会附設展示会

◎会場: 京都女子大学

● 今後のB人セミナースケジュール

第5回 1/29(土)

10:00-12:00

●「食品業界および企業での研究開発について」

13:00-15:00

●「キャリアシード」-自分自身の「内なる要求」に気付けていませんか!-

第6回 2/5(土)

10:00-12:00

●「やりたいことを見つける・天職をさがす自己分析法」

13:00-15:00

●「準備がよくても行動が間違っていたらアウト!
今さら聞けない就職活動の基本と必勝法とは?」23年度も前期・後期の2タームでの開催を予定しております。
日程、セミナー内容については、随時 ホームページにアップ
してまいります。その他 イベント情報もアップしておりますので、合わせてご
確認ください!

ビジネス人材育成センター登録者募集

【対象/全国の大学院生、ポストク、若手研究者】

就職活動について悩みがある、情報がほしい、などどんな方でも
歓迎です。 <http://www.b-jin.jp> から登録してください。

登録者の方々へ

就職が決まった方、登録内容に変更が生じた方は、
support@b-jin.jp にご連絡ください。また、連絡の行き来がなくなってしまった方、ずっと連絡して
いないけど、最近相談したい事が出てきた方など遠慮なく担当し
ていた教員あるいは support@b-jin.jp にご連絡ください。

連携協力研究機関の方々へ

説明会や面接会などを一緒に企画し、開催したいと思います。
ポストクや博士後期課程の学生からキャリア支援の要望は出てい
ませんか? また、相談を受け支援方法を模索している教員の方は
いませんか?もし、各機関に所属されているみなさんからのご要望がござい
ましたら、お気軽にご連絡ください。連携機関: 岐阜大学、静岡大学、自然科学研究機構岡崎サイト、
富山大学、豊橋技術科学大学、名古屋工業大学、
名古屋市立大学、浜松医科大学、福井大学、三重大学

B人セミナーへの参加について

【対象/全国の大学院生、ポストク、若手研究者】

●参加希望者はホームページより参加申し込みをしてください。

●詳細は <http://www.b-jin.jp> をご覧ください。

教員の皆様へ

本センターでは様々な研修を開催しております。就職希望の方
はもちろんですが、若手研究者が研究を続けるうえでも参考にな
る研修もございます。土曜日に行われることが多いため、研究室
の若手研究者に、参加を促していただけますと幸いです。また、進路に悩んでいる大学院生や若手研究者がいらっしや
いましたら、当センターのことをご教授いただけますようお願いい
たします。研究室や学科ごとのセミナー開催時などに、ガイダンスに伺う
ことも可能です。お気軽にご相談ください。 support@b-jin.jp

企業の方々へ

博士学位取得者の採用をご検討中の企業の方は、

support@b-jin.jp にご報ください。当センターの登録者は、バイオ系、物理系の博士課程在学者や
ポストクですが、その多くは分野を問わず活躍していきたいと考
えています。そんな博士課程在学者・学位取得者の状況や本学の事業について、
教員がご説明に上がります。

シンポジウム「先輩にきけ!」~博士の多様なキャリアパス~を開催しました。

10月9日に大学院生やポストクなどの若手研究者対象にシンポジウム
「先輩にきけ!~博士の多様なキャリアパス~」を野依記念学術交流館に
て開催しました。基調講演として、毎日新聞社の西川拓氏より「博士に求められている
もの」について、武田薬品工業株式会社の舟橋康昇氏より「研究開発型
製薬企業の現状と博士人材に求めること」について、さらに恵泉国際特許・
法律事務所グループの矢口太郎氏に「海外で活躍する博士・ポストク人
材~現状と展望~」についてお話し頂きました。実際に博士人材を採用
している企業、博士の現状取材し続けているジャーナリストからの現
実的なお話は、若手研究者が現在おかれている状況を知る良い機会にな
ったことと思います。後半には「先輩の声」として、最近まで研究機関でポストクをしていた6名の先輩からの経験談が語られました。自らのキャ
リアパス選択において考えたことや現職にたどりつくまでの過程や後輩へのアドバイスなど、リアルな体験を語って頂く場
となりました。当日は80名以上の方が集まり、どの講演者に対しても活発な質疑応答が行われました。シンポジウム終了後に行った情報
交換会では、参加した研究者たちが講演者や先輩たちに質問をしたり、参加者同士がお互いに情報交換をしていました。生の
声を聞き、情報をたくさん得る時間が多くあった事もあり、参加者からも有意義な会であったと好評を得ることができました。

個別キャリアガイダンスを行います!

毎年4月の理系各研究科のガイダンスの中で、本センターの紹介をしています。しかしそれだけでは説明しきれない部
分も、多くあると思います。その不足を補う意味も含め、個別出張ガイダンスを行います。ご希望の方は、名古屋大学社会貢献人材育成本部ビジネス人材育成センター (support@b-jin.jp) にメールでご連絡ください。
※できる限りご希望を優先致しますが、面談や出張などご希望に沿い兼ねる場合がございます。ご了承ください。

件名: 「博士・ポストクのキャリアガイダンス希望」

■希望の時間や場所、参加希望者の人数と属性(教員、ポストク、大学院生)

■聞きたい項目や話して欲しい内容を簡単にお知らせください。

※連絡を取る代表者の所属と連絡先も必ず記載してください。



名古屋大学 専用求人サイト「Uni Career」

名古屋大学就職支援室では、大学宛てに送信された求人票、セミナー、インターンシップ情報を検索・閲覧できるよう、
名古屋大学の学生専用の求人サイト「Uni Career」を開設しました。エントリー情報、セミナー予約も可能です。就職情報サ
イトでは掲載されていない求人情報も数多く掲載しています。アクセスには、【ID】と【パスワード】が必要となりますので、ご興味をお持ちの方は『名古屋大学就職支援室』にお問い合
わせください。

登録・お問い合わせは

<http://www.b-jin.jp>E-mail support@b-jin.jp■発行者 名古屋大学 社会貢献人材育成本部 ビジネス人材育成センター
〒464-8601 名古屋市中区千種区不老町インキュベーション施設108号室
TEL 052-747-6490 FAX 052-788-6018

マルチキャリアパス!! 博士が社会で大活躍!

数年前まで研究機関でポスドクをしていた7名の先輩のお話を要約して掲載します。現在は企業や大学でさまざまな職種に就き、活躍している方々です。みなさん、研究生活で培った能力を多様な分野で存分に発揮されています。

同じ業界で活躍する
ドクターも多くいます。
研究歴があるからこそ
できる仕事もあります。



鈴木 武士さん

タイテック株式会社 商品企画部

大学卒業時、就職氷河期の予兆を感じ、大手へ就職。品質管理業務を1年経験したが、研究に戻りたいという強い思いを抱き退職、進学して博士号を取得した。

自分なりに目標期限を決めポスドクとして研究をしていたが、結婚して一家の大黒柱となった事をきっかけに、任期付きの立場から安定した職を求め、就職活動を開始した。何社かは最終面接に至るも、内定は取れず…。

そんな時、研究の技術サポート関連の職種を知り、現在の会社にエントリーする。その決め手は、業界では有名な科学機器メーカーであった事と研究を通じて使い手としても商品を熟知していたこと。でも何より、各部署にドクターがいるという心強い環境であった。

この会社では、これまで培ってきた研究者としての経験を活かし、専門的な対応から、営業のサポートや教育、技術面での知識サポートなど、販売と製造、ユーザーとのパイプ役を任されるなど、研究者としての経験を最大限に活かし、活躍している。

なるほど、こんな世界もあったか!
論文を書いた経験を活かし、
技術的な記事を書く博士記者。



富井 哲雄さん

日刊工業新聞社 編集局科学技術部 記者

研究室にいた頃は、自分が新聞記者になるなど夢にも思っていなかった。

「自分の取り組んできた研究を活かせる開発の仕事に就きたい」と思っていたが、大企業への就職は容易ではなかった。当初は、専門性を生かせそうな知的財産の分野に興味を持ち、ヒアリングを重ねていったが、ある面接をきっかけに、まったく就職経験が無いままでは、就職できても役に立たないということを痛感。技術系での仕事を探そうと情報収集をしたところ、現在の会社と出会う。産業界なら、技術的な記事を書くという点で論文を書いた経験を活かせるだろうし、なるほどこんな世界もあったか!と目から鱗だった。

新聞社では先輩社員も中途採用が多く、年齢を気にせず1から現場で学ばせてもらうことができた。入社早々から「博士!」と呼ばれ、社内でも注目の存在に。記者としては駆け出しでも、研究者としての目線や知識がベースにあることで、技術者や研究者に対して一歩踏み込んだ厳密性の高い取材をすることができた。

入社1年目は科学技術部への配属が決まり、仕事への面白さも深まりつつある。

「ジャーナリストとしての伝え方と研究者としての捉え方という2つの目線を持てたことが、自分の自信につながった」という。

日刊工業新聞社初の博士記者。まだまだ前例は少ないが、今後専門分野の高度化やボーダレス化が進むにつれ、報道の分野でも期待される存在になっていくに違いない。

ポスドク経験は良い意味での“まわり道”、就職活動では大きな強みとなりました。

長嶋 千恵さん 基礎研究企業 研究員

学位取得前から企業で働きたいと思っていた彼女にとって、研究室の装置開発を果たし、出産の経験もしたポスドクの4年間は、良い意味でのまわり道だったという。現在は基礎研究を行う企業で研究員として勤務している。

4社から内定を受けた就職活動法は、彼女オリジナルの職務経歴書にある。とにかく出来る事を具体的に明記、そして説明しづらい専門分野については図を用いた資料を数枚添付。“初めて見た”と驚く企業もあり、それが自信に繋がった。出張・残業も前向きに意志を伝えることで、子育てをハンディにさせなかった。また就職活動を通して、まわり道だと思っていた装置開発の経験が、大きな強みになる事を知った。「企業に就職するまでには少し時間がかかった、けどそれがよかったのかもしれない。ポスドクの時から研究だけに目を向けるのではなく、事務的な仕事も積極的に手伝っていた。それも含めて、ポスドクでの4年間は十分に活きている」と語る彼女は、家庭でも会社でも、欠かすことのできない存在となっている。



“博士”ではなく、
“自分”の生き方を
探してみてください。
きっと見つかると思います!



花田 孝雄さん

株式会社ジャパン・ティッシュ・エンジニアリング
営業部 営業企画課

就職活動を考え始めたきっかけは、ポスの転任であった。今から30年以上、アカデミックポジションで研究をすれば、特定領域内での人脈しかできない。自分は研究以外にも興味があり、もっと広い人脈が作りたい、という思いが強かったため、企業への就職を決意した。

自分のアピールポイントは“研究”であると思いき、研究開発職志望で就職活動をしていた。

しかし難航し、ある縁で、学術営業という職に出会い採用された。現在は、顧客と研究者の間に入り、交渉役として活躍している。“博士”という意識を持たず、“一社員”として周りを見て、溶け込めるように努めたことが社内でも早く活躍できるようになった秘訣と語る。「博士取得やポスドク時代の経験は、自分の中にある。外にあえて発信しなくても、その経験は必ず活かしてくる」

さらに、熱いメッセージを送ってくれた。「自分がラボを持つ人間になる気があるか、そのつもりがないなら早い段階で見切りをつけるのもいいかもしれない。一瞬でもキャリアチェンジを考えたのなら、次のアクションを起こすべきだ!」と。

「後から後悔しないように選ぶ」
だけでなく、
「選んだことを後悔しないように、
選んだ後に頑張れ!!!」



吉村 武さん

自然科学研究機構 生理学研究所 特任助教

専門は分子生物学・神経科学だが、趣味はマーケティング、特に企業戦略などに興味がある。研究者のキャリアを歩む中、企業への就職にも意欲的だったのは、父親の影響から。

自身の研究分野(生物学)を活かせそうな化粧品メーカーや製薬会社などに対し、就職活動をした結果得られたのは、バイオ系のポスドクは“社会経験の無い中途採用”として、即戦力にならない中途は必要ないという企業現実だった。そこでアカデミック・ポジションに残ろうと決心した。

気持ちを切り替えて間もなく、現職の研究室で特任助教を公募していることを知る。ただ、これまでの研究分野とまったく異なるテーマでの募集だっただけに、多少の躊躇はあった。「素人でも今後情熱を持って取り組んでくれるのならすぐにでも来てほしい」その言葉で、就職を決めた。

自らの未開の分野に飛び込んでいくには、それなりのプレッシャーや葛藤があって然り。だが、それを乗り越えずして、次のステージはない。そんな研究者の立場を、彼はプロ野球選手にたとえ、ホームラン王になることだけが一軍に定着する方法ではない。ただ、どのタイプにしろ常に重症の中で戦い続けなくてはならない。簡単に押し潰されるようじゃ、はなから上のポジションは狙えないと話した。研究をするからにはきちんと論文として形にし、より高いレベルでの評価を得るといふ何かしらの結果を出さなくてはならない。彼は、プレッシャーを感じすぎない適度な“鈍感力”を武器に自ら選択した道を後悔しないため、日々研究に邁進する。

大学院(研究)生活では学問以外の
ことも多く学び鍛えられています。
それらを生かせば、将来の道の
選択肢はたくさんありますよ。



堀田 美佳さん

日本メナード化粧品株式会社
研究員

大学生の時、将来は“教育する”仕事に携わる事を希望していた。しかし、博士修了間近になって、自らの将来に迷いが生じた。「企業か? 国内もしくは海外でのポスドクか?」

その頃、“産学連携”という新たな分野での【コーディネーター】の職を紹介された。当時、名古屋大学には若いコーディネーターがいなかったということも、その選択肢を選ぶ後押しとなり産学連携コーディネーターとしての活動を始めた。新たな分野ではあったが、それまでの研究生活とのギャップもなく仕事できたという。ただ企業との対応には、戸惑う部分もありながら、博士課程で培った“考え方”を活かす事ができた。「原因を究明し、その原因に対応した方法を導きだし、自ら対応する。研究の考え方と一緒に!」

産学連携の分野に進んだのは“教育する”という希望がブレたわけではない。これまで研究してきた専門分野について学生に教えることも、産学連携について教えることも“教育する”ことに変わりないと思ったからだ。

コーディネーターとして活動を通して就職を決めた彼女は、日本メナード化粧品会社へ就職。そのきっかけは、学会などでみかける社員さんの積極的な雰囲気だった。

就職後は、学術、研究、新規事業部【セリシス(社内ベンチャー)】と、様々な仕事を変遷し、活躍している。

「教育は大学だけでなく、会社でもできる」今彼女はそう実感している。これからどのような人生を歩んでいくのかかわからない。「20年後の自分が何をしているのか楽しみ!」という。

キャリアを活かした
研究の場は
社会にたくさんあります!



山口 喬弘さん

基礎研究企業 研究員

“自分がやりたい研究は大学にしかないかもしれない”とポスドクを続けていたが、その半面“社会とも繋がりのある企業で働いてみたい!”という思いがあり、就職活動を始めた。当センターからの募集メールがきっかけとなり、現在は企業の研究開発で研究員として活躍している。

内定を受けた時とほぼ同じ時に、ポスドクのおファーがあり、選択に悩んだという。しかし今の道を選んだことに全く後悔はない。ポスドクの時とは、時間の使い方・プレゼンする方法どれをとっても変わり、研究に対する姿勢が変わったという。「会社の仲間から研究成果を評価してもらえた時、“やってよかった”と今までにはなかった充実感・やりがいを感じられる」

もう今は場所にこだわりのない。自分の研究の先にあるのは“論文”ではなく、“社会の役に立ちたい”という明確な目標ができたのだ。自分のやりたい仕事、その場所を探すのは難しいかもしれない。しかし多様な社会にはその場所が必ずあるに違いない。